

# 合田邸通信 vol.7

令和6年6月17日

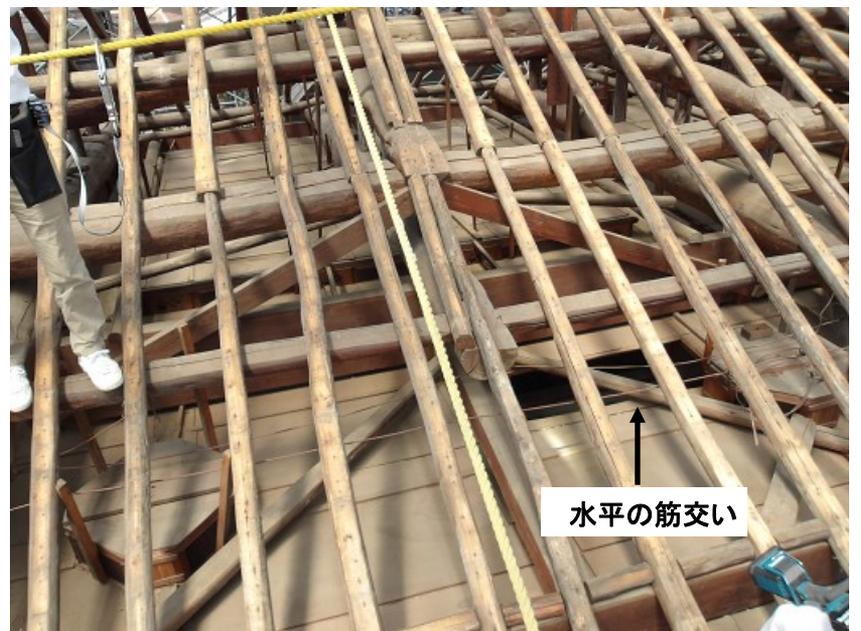
今月をもって「えじぷとの間」の第1次保全工事及び調査は終了します。現状では野地板の取外しを終え、屋根の中の構造が確認できました。

それは屋根の構造が垂木そのものの本数が非常に多いこと（写真①）や地震や風対策などの平面的なズレに対応するために、小屋内に水平の筋交い（写真②）を設けていることなどです。そのため本来建屋の壁面が3面ガラスで強度上の問題が以前から想定されていた「えじぷとの間」ではありますが、それを補うための対策をしっかりと行っていることが分かり、昭和以降の大地震(昭和南海地震など)にも持ちこたえていた理由が今回の調査によって少しは理解することができたのではないのでしょうか。また当初は雨やシロアリの影響で部材がかなり損傷していることが想定されていましたが、今回の調査によって比較的多くの部材が復元に際して使用可能であることが分かりました。

来月以降には1次調査に継続する形で「えじぷとの間」第2次保全工事及び調査へと移行していく予定です。



① 屋根で確認された本数の多い垂木



② 屋根内部の水平の筋交い

